

自利利他

児玉 直樹

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

平安時代初期の僧である空海は、真言宗の開祖として知られています。774年生まれ、空海は豪族である佐伯家の出身で、18歳の時に儒学を学び、その後に奈良の金峯山や四国の石鎚山などで山林修行に励んだといわれています。804年には遣唐使の留学僧として唐へ渡り、2年という短期間で密教（新しい仏教）を修めています。816年に勅許を得て高野山金剛峯寺を開創し、823年には嵯峨天皇から東寺（真言宗総本山、1994年に世界遺産に登録）を賜り、真言密教（仏教）の道場としました。空海は835年に高野山で示寂（高層の死）し、921年に醍醐天皇から弘法大師の諡号（死後のおくり名）が贈られています。書の名人であった弘法大師でも、書き損じることがあるということわざの「弘法にも筆の誤り」は有名ですね。



自利とは自分が幸せになること、自分を利することを意味し、利他とは他人を幸せにすること、他人を利することを意味しています。空海は自利利他を唱え、自らを利すること、すなわち自己を深めることと、他者を救済することは一つである、と教えました。つまり、修行で自己を深めることと他者を幸せにすることは同じである、と説いたのです。まさに医療専門職は自利利他であると思います。日々の学習によって自己を深めることにより、患者の救済、患者の幸せに寄与しているのです。われわれ診療放射線技師も自利利他の精神で、告示研修への積極的な参加が求められます。告示研修への参加を通じて自己を深めることにより、患者のQOL向上や満足度の向上、他の医療専門職のQOL向上につながっていくのです。2023年3月31日現在、告示研修に29,105人が申し込み、21,839人が基礎研修を修了し、11,834人が実技研修を含めた全ての研修を修了しています。医療機関で働いている診療放射線技師の約51%の方にすでに申し込みを頂いており、20.8%の方が全ての研修を修了されています。他の医療専門職と比べても修了率は高い状況になっており、告示研修受講の重要性が十分に理解されてきているのではないかと感じるとともに、診療放射線技師には自利利他の精神が広く浸透しているのではないかと思います。

京セラの創業者である稲盛和夫氏は、事業は自利利他という関係でなければならない、自分が利益を得たいと思っるとする行動や行為は、同時に他人、相手側の利益にもつながっていなければならない、自分がもうかれれば相手ももうかる、それが真の商いである。常に相手にも利益が得られるように考えること、利他の心、思いやりの心を持って事業を行うことが必要である、と語っています。また近江商人の「三方よし」は、売り手よし、買い手よし、世間よし、のことであり、商売において売り手と買い手が満足するのは当然のことで、社会に貢献できてこそよい商売といえる、というものです。三方よしも自利利他の精神であるといえます。医療に限らず、商売やサービスにおいても基本は自利利他であるのです。自利利他の反対語は我利我利になります。この我利我利とは、他者を顧みず、自分の利益だけに目を向け、その獲得に力を尽くすことをいいます。医療においても商売においても、我利我利の考え方はこれからの時代には通用しなくなるでしょう。この我利我利は、現代では痩せ細った、細いという意味を表す言葉として使用されています。地獄にいる餓鬼は、皆痩せ細ってガリガリな姿で描画されていますよね。自分の利益ばかりを考えて、他者を顧みず生きていくと、最終的にはどんどん痩せ細ってしまうことを表現しています。ぼっちゃりする必要はないと思いますが、診療放射線技師は我利我利ではなく、自利利他を行動の基本としたいですね。